

# 自然と科学なんでもニュース

No. 80 2011. 12. 23  
銀山中学校  
神 貴 夫

## 福島市・二本松市・一関市、民家の掃除機から高濃度セシウム！ ～「全国旅行業協会」それでも東北地方に修学旅行を積極誘致？～

「全国旅行業協会」という団体がある。比較的小規模の旅行会社が加盟する団体で、加盟企業は 5500 社あまりに及ぶ。平成 23 年 9 月 26 日（月）宮城県仙台市秋保温泉で「東日本復興支援会議」を開催し、下記の決議を採択した。

平成 23 年 9 月 26 日

### 東日本大震災からの観光復興支援に関する決議

社団法人 全国旅行業協会

観光は、東北地方において農林水産業と並ぶ基幹産業と位置付けられ、観光の地域経済に対する役割の大きさ、裾野の広さを考慮すれば、被災地域の観光の一日も早い復活を成し遂げ、地域の経済の復興・活性化に寄与することが極めて重要である。

このため、社団法人 全国旅行業協会は、宮城県において東日本大震災復興支援会議を開催するに当たり、全国 5500 余りの会員一丸となって、下記のとおり今後とも取り組むことを決議する。

#### 記

1.東北の観光の復興のためには、何よりも風評被害対策に全力を尽くすことが重要であることに鑑み、地域における正確な情報の収集に努め旅行者等からの問い合わせに対して適切に対応するとともに、観光関連団体と協力して風評被害の払拭に最大限努めること。

2.国や都道府県が公表する情報を踏まえて、会員や旅行者に対してホームページ等を通じて地域における正確な情報を提供すること。

3.東日本大震災で被害を受けた東日本各地域の観光復興と当協会の会員を支援するため、引き続き、被災地域向けの復興支援ツアーや被災地での支部研修会等の実施に努めるなど、送客支援に努めること。

4. 福島県をはじめ、東北地方各地への修学旅行のキャンセルが相次いでいることに鑑み、修学旅行の東北地方への誘致に努めること。

5. 震災・原発の影響で深刻な状況にある東北各県の風評被害を少しでも防ぐため、イベント等において、東北地方産の野菜や食材を使ってもらえるように働きかけること。

（於：宮城県仙台市秋保温泉）

中学校では来年度の修学旅行先をどうするか、確定する時期を迎えている。道内の中学校であれば東北地方を旅行先にしてきた学校が多数ある。後志管内に勤務するようになって既に 20 年以上になるが修学旅行はずっと東北地方だった。陸奥の情緒ある名所をたずねる旅行は個人的にも気に入っていた。

しかし、昨年 3 月 11 日、東日本大震災が発生したことからほとんどの学校は旅行先を変更した。本校も大阪方面に急遽場所を変更した。仕方がないことだ。あれから半年、放射能汚染の現実を目につぶるかのように「復興キャンペーン」が相次いでいる。上記の「全国旅行業協会」の東日本大震災復興支援会議の決議もその一環だ。こうした動きに合わせて、修学旅行先を東北地方に戻す動きが出始めている。復興を待ち望む気持ちは理解できるが、ことは生徒の健康に重大な影響を与える内容だけに冷静に対処することが重要だ。

上記の決議の 4・5 は、放射能汚染という深刻な現実に対して何も見解を示すことなく意気込みだけが掲げられている。我が子を放射能で汚染された地域に「復興支援名目」で修学旅行に出すような保護者がいると思ったのだろうか？ましてや野菜や食材をどんどん使うように働きかけるに至っては常軌を逸している。

この決議が採択された一ヶ月後の 10 月 22 日、**福島県佐藤知事が「米の安全宣言」**を出した。しかし、**その後、次々と福島県産の米が高濃度に汚染されていたことが発覚した**。当然、「安全宣言」は撤回し、全量調査が実施されて、その結果をもって何らかの見解が与えられるものと思っていたが、**佐藤知事は「安全宣言」は撤回しないのだ**。そうだ。

～ 以下 ニュースより ～

## 「福島県産米「安全宣言」撤回せず 知事「流通不検出米のみ」

福島県産米が放射能汚染を受けていないとする県の安全宣言の後、**県内3地区のコメから国の暫定基準値(1キログラム当たり500ベクレル)を超す放射性セシウムが検出**された問題で、佐藤雄平知事は 3 0 日の記者会見で「セシウム不検出のコメだけが流通しており、安全性は保たれている」と述べ、安全宣言を撤回する考えのないことを強調した。

佐藤知事は安全宣言後に基準値超えのコメが出たことについては「痛恨の極みで消費者に心配を掛けた」と陳謝した。県は問題を受け、9～10月の予備検査と本検査のいずれかで微量でもセシウムが検出されたコメの生産農家の所在する 2 8 市町村 1 4 9 地区に全戸検査の対象を拡大することを決めた。対象農家は県内約 6 5 0 0 0 戸の全農家の 4 0 %近い 2 万 4 7 3 0 戸に上る。

全量調査もしないうちからなぜ「セシウム不検出の米だけ流通している」と言い切れるのか？まったく不可解である。すでに闇で流通している可能性も多分にあり、11 月後半には福島県産の米が銘柄を偽装して販売される事態も起きている。

穀卸の宮城県内大手、協同組合ケンベイミヤギ（仙台市太白区、岡部英之理事長）が一般消費者向けの精米商品で、実際とは異なる産地や銘柄を表示し、販売していたことが 2 8 日、分かった。東北農政局や宮城県など関係機関は日本農林規格（J A S）法違反などの疑いがあるとして、ケンベイへの立ち入り調査を実施。行政指導・処分の検討に入った。関係者によると、ケンベイは 2 0 1 0 年から 1 1 年にかけて

(1)福島県産のコシヒカリやひとめぼれを宮城県産と表示

(2)一般の宮城県産ササニシキを同県産の特別栽培米ササニシキと表示

(3)未検査米を青森県産つがるロマンや宮城県産みやこがねもちと表示

するなどして販売した疑いが持たれている。農政局などの調査に対し、ケンベイは事実と異なる表示をしたことを認めているという。

こうした事態に加えてさらに深刻な状況が明らかになってきている。

### 【汚染】家のホコリ(掃除機のゴミ)の放射性物質検査 2011.12.19

福島老朽原発を考える会（フクロウの会）は 12 月 16 日に、尿とハウスダスト（掃除機のゴミ）中の放射性セシウム量の分析結果を発表。尿検査はこれまで 2 度（5 月末と 7 月末）行なっていて、今回は 3 度目の結果が発表されました。尿中からセシウムが検出された被験者は福島市、伊達市、郡山市、岩手県一関市在住でした。最高値は、一関市在住の子どもの 4.64Bq/L でした。この結果は「福島老朽原発を考える会」が行ってきた尿検査の結果の中で最高値。

#### ハウスダスト（掃除機のゴミ）中の放射性セシウム検査結果

<対象地域>

伊達市：3 軒、郡山市：2 軒、二本松市：1 軒、福島市：2 軒 岩手県一関市：2 軒、岩手県奥州市：1 軒、千葉県柏市：1 軒、大阪府吹田市：1 軒

【検出結果（セシウム 134 と 137 合計）】

**福島県二本松市戸沢で 16,200 ベクレル/kg、福島市渡利で 19,500 ベクレル/kg、福島市南矢野目で 11,300 ベクレル/kg、福島県伊達市霊山町で 5,180 ベクレル/kg、岩手県一関市山目で 5,860 ベクレル/kg、千葉県柏市塚崎で 5,970 ベクレル/kg。**

原発など原子力施設の敷地内では一定基準を超えたすべての汚染物を放射性廃棄物として扱う。放射性廃棄物の基準はセシウムで 100 ベクレル/k g。その基準を超えたものは放射性廃棄物として、移動や処分を厳格に管理され、資格の無いものが移動することや、特別に決められた処分施設以外での廃棄は許されていない。しかし、**福島第 1 原発事故が発生後、1 0 0 ベクレル → 8 0 0 0 ベクレル → 福島県では 1 0 万ベクレル → 全国で 1 0 万ベクレルと規制が緩和されてきた**。国の都合で基準が変わっただけで、危険性が減ったわけではない。

私の故郷も東北にある。東北が苦境に立たされていることに辛さを感じる。しかし、だからといって、子どもたちに被ばくのリスクを負わせることは 2 重の意味で辛いことだ。高度経済成長を「でかせぎ労働」で支え続け、大都市東京の電源供給基地として支え続けた東北。これから厳しい冬を迎える。今までは堪え忍びさえすれば、また新しい春を迎えて田植えができた。しかし、来年の春に起きることは、雪解けとともに山野の放射能は田に集められ再び濃縮を繰り返す。豊かな春は失われたのだ。これが「原発」という存在だ。

「奪われし未来」（シア・コルボーン）が環境ホルモンによる生物種の死滅を警告してから 15 年。原発事故は、自然豊かな「みちのくの地」から未来を奪いつつある。